

シシリムカ文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2019. 1. 25

No. 1



平取町立二風谷アイヌ文化博物館（左）と沙流川歴史館（右）

「シシリムカ文化財だより」発行にあたり

2001 年から 2018 年までの間、平取町教育委員会文化財課埋蔵文化財係が発行してきました「沙流川歴史館だより」は、昨年 10 月発行の No. 70 をもって終了させていただきました。

本年 1 月発行分からは「シシリムカ文化財だより」として名称を改め、平取町教育委員会文化財課が平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館の文化財情報をお知らせするべく誌面充実に努め、改めて年 4 回（4・7・10・1 月）発行させていただくことになりました。

両館の施設概要を若干説明しますと、平取町立二風谷アイヌ博物館は 1992 年 4 月に開館し、これまでに 70 万人を超える入館者を迎え入れています。館内には国の重要有形民俗文化財である「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」として、二風谷出身者である故萱野茂氏（1926-2006）が半世紀以上かけて収集したアイヌコレクションを中心に、アイヌ民具資料群が常設展示されています。また、昨年春からは今日的なアイヌ文化を紹介する多言語対応のガイダンス映像や QR コードによる解説も加わり、海外からのゲストも増加中です。一方の沙流川歴史館は、1980 年代の二風谷ダム建設工事による遺跡発掘調査が契機となり、北海道開発局室蘭建設部が施設を建設、平取町が管理・運営を受託する形で 1998 年 7 月に開館しております。館内には主に町内の遺跡調査で出土した考古資料をはじめ、沙流川流域の四季折々の自然を学べる展示資料や映像が見学できるほか、210 人収容可能なレクチャホールも備えられています。改めて、本年も皆様のご来館をお待ちしております。（森岡健治）

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

Nibutani Ainu Culture Museum



- 開館時間 午前9時00分
- 閉館時間 午後4時30分
- 休館日 11月16日～4月15日（月曜日休館）
12月16日～1月15日（館内整備のため休館）
- 入館料 大人400円、小・中学生150円
（20名以上の団体：大人350円、小・中学生100円）
萱野茂二風谷アイヌ資料館との共通券
（大人700円、小・中学生200円）
びらとり温泉ゆからとの共通券（2館共通券）
（大人700円、中学生450円、小学生200円）
資料館・ゆからとの共通券（3館共通券）
（大人1,050円、中学生550円、小学生300円）

平取町立二風谷アイヌ文化博物館は、アイヌ民族の伝統文化を後世に伝えるために建設され、1992年（平成4年）4月に開館しました。

館内は「アイヌ ～人々の暮らし～」、「カムイ ～神々のロマン～」、「モシリ ～大地のめぐみ～」、「モレウ ～造形の伝統～」の4つのゾーンで構成されています。（笠原早百合）



アイヌ ～人々の暮らし～

育児・遊戯娯楽・木彫・衣類・食事・住居などの分野を中心に、古い生活用具類を展示しています。

とくに、彫り物や縫い物にみられるアイヌの伝統的な技工や文様の美的センスにご注目ください。



カムイ ～神々のロマン～

祈りや信仰、伝説、物語などの精神文化にふれるためのゾーンです。ユカラ（叙事詩）・カムイユカラ（神謡）・ウウェペケレ（昔話）などは、ここだけで聞ける珠玉の伝承作品です。



モシリ ～大地のめぐみ～

農耕や狩猟、運搬、それに葬送などに関する資料を紹介しています。丸木舟は、大きさでは日本一。アイヌ文化の里二風谷で、現在活躍中の工芸家たちが腕をふるった作品類も、どうぞお見逃しなく。



モレウ ～造形の伝統～

アイヌの技巧と造形美を紹介しているゾーンです。男女の手仕事それぞれに造形の伝統で培われた美があります。モレウ（静かに・曲がる：アイヌ文様）による装飾と優れた造形の世界をご堪能ください。

沙流川歴史館

Historical Museum of the Saru River



- 開館時間 午前 9 時 00 分
- 閉館時間 午後 4 時 30 分
- 休 館 日 月曜日（月曜日が祝日・祭日の場合は、その翌日）
12 月 30 日～1 月 5 日
- 入 館 料 無料



二風谷ダムカード

沙流川歴史館は、1998 年（平成 10 年）7 月に開館しました。

沙流川歴史館の主な事業は、常設展示のほか企画展や特別展の公開、歴史館講座の開催などがあります。また、現在人気上昇中のダムカードも開発局の依頼により無料配布しています。

（おひとり様 1 枚）

（坂本エミ）



沙流川の自然

二風谷の芸作家が制作したシマフクロウやオジロワシなど、実物大の木彫動物などを使ってリアルに再現しています。沙流川の自然を感じさせる空間になっています。



チャシ跡の調査

ダム堤体と管理所の建設に伴って、発掘調査を行ったときの調査状況をジオラマで紹介しています。また、収蔵展示室内には、町内で発掘された考古資料が多数展示されています。



レクチャーホール

固定座席 210 席を備え、アイヌ古式舞踊体験・講演・上映会など修学旅行生をはじめ様々な団体に利用いただいています。



展望ギャラリー

にぶたに湖を見渡せる展望台。季節ごとに姿を見せる野鳥、山間に沈む夕日、四季折々の自然が楽しめます。

重要文化的景観

—重要な構成要素の紹介 1—

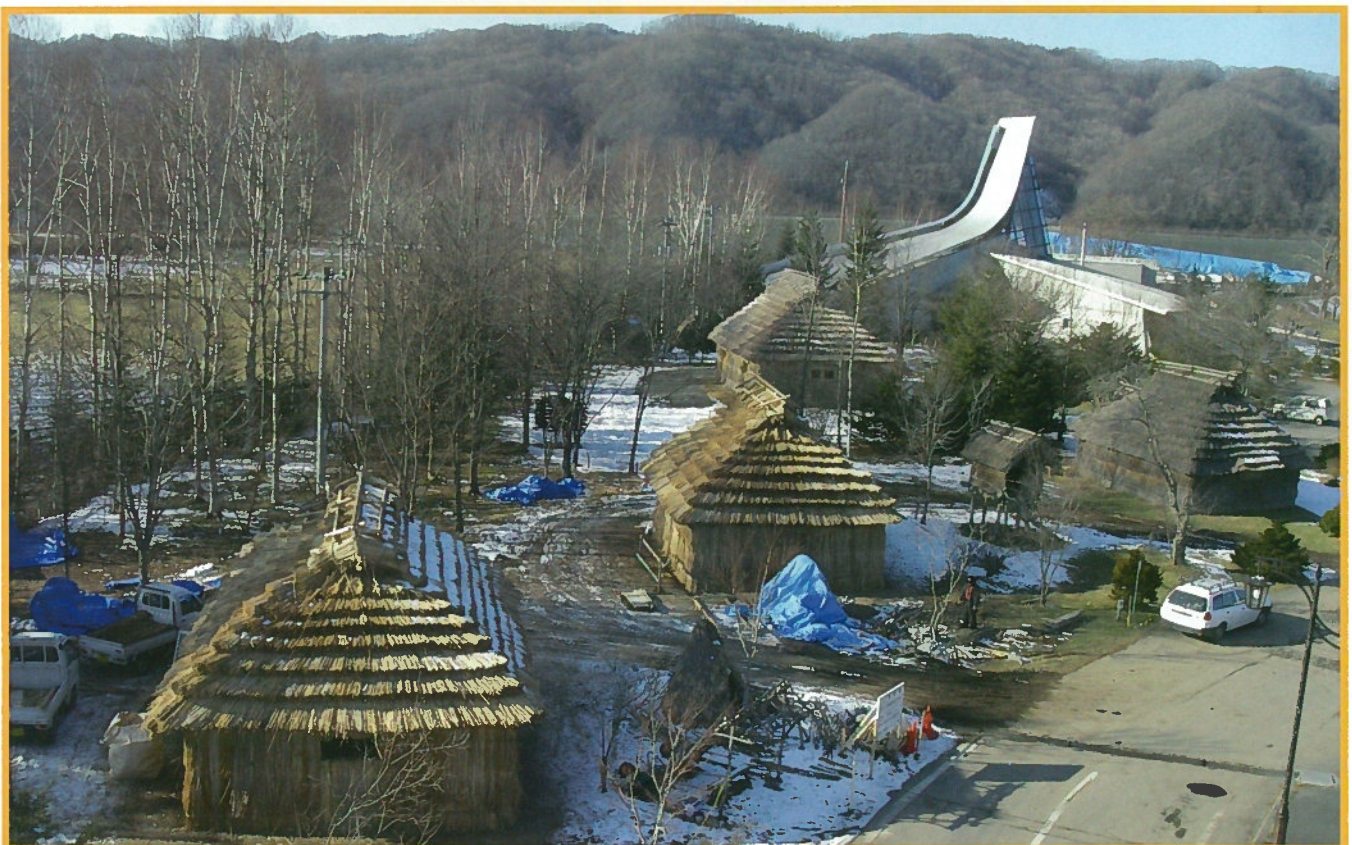
重要文化的景観「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」は、2007年（平成19年）7月26日に国文化財として選定されました。現在、平取町内で8地区に分けられており、それぞれの地区で重要な構成要素が設定されています。シシムカ文化財だよりでは今号以降、重要な構成要素の紹介を連載していきます。

博物館周辺のチセ群（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

平取町二風谷は、アイヌの伝統が色濃く残る地域として国内外に広く知られています。二風谷アイヌ文化博物館、平取地域イオル再生事業の施設群やアイヌ工芸品店などが建ち並び、地域の暮らし・生業と結びつく文化継承が推進されています。とりわけ博物館周辺で行われているチセ（家）の復元と活用は、地域におけるアイヌ文化の今日を象徴する姿といえます。

博物館周辺には野外施設としてアイヌのチセが復元されています。平取町のアイヌ文化学習及び観光・文化振興の拠点として、1985年以降9棟のチセ群が整備され現在に至っています。

近年のグローバル化であらゆるものが画一的に整備されていく中、古い暮らしの知恵や技をどう伝えていくかが日本各地で問われています。カヤで葺かれた伝統的なチセは現在、住居として用いられることはありません。しかしアイヌ工芸やアイヌ語、アイヌ古式舞踊等の学習や披露の場として活用されています。チセの建築技法及び儀礼を継承するための実践も、アイヌ文化を正しく発信する重要な活動といえます。様々に行われる平取ならではのチセ群整備は、北海道の多様性を伝える魅力として、今後一層注目されていくと考えられます。（長田佳宏）



二風谷のアイヌ文化継承拠点である博物館チセ群及び博物館、にぶたに湖右岸の森林（重要文化的景観二風谷区域）

アイヌ語を覚えてみよう ①

イランカラナテ！（こんにちは！）今回よりシリーズでアイヌ語の記事を書いていきます。

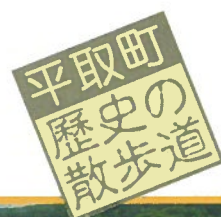
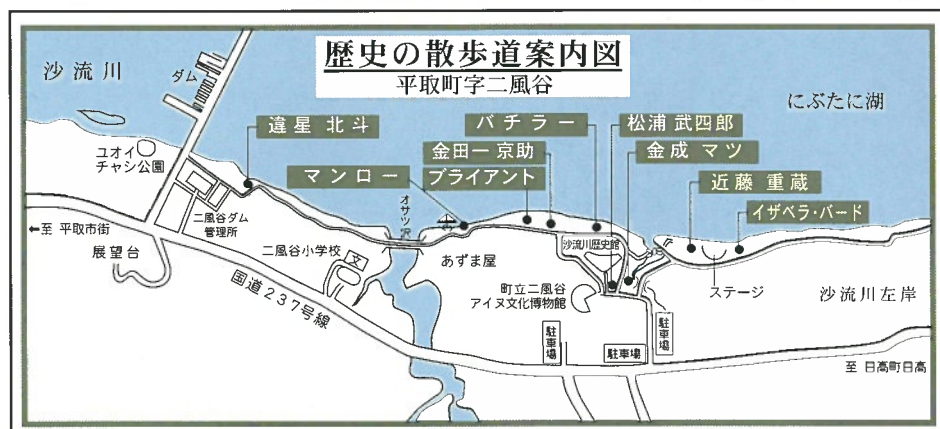
これをアイヌ語で言ってみると「テワノ タン カンピソシ アサンケ ヒ ピシノ ネプ カ ア
アイヌイタク オルシペ クヌイエ クス ネ。」とでも言えそうです。【テワノ・これから タン・
この カンピソシ・冊子 アサンケ・発行する ヒ・時 ピシノ・～ごとに ネプ カ・何か
アイヌイタク・アイヌ語 オルシペ・お話 クヌイエ・私が書く クス ネ・～しますよ】

このように、単語をそのままの順番で読めば意味が通じます。言葉の並びが同じなので、日
本語話者にとってアイヌ語はとても分かりやすい言葉だといえます。さらにアイヌ語と日本語
に共通するのは母音の数が同じ 5 つ、ということです。例えば英語なら ア でも、æ、ʌ、ɑː、
ə、などの音声記号で書き分けるように、いろいろな音がありますが、アイヌ語や日本語では
基本的に、アには、ア という 1 つの音だけしかありません。そして、これら母音はア、イ、ウ、
エ、オ、の 5 音だけなのがアイヌ語と日本語の共通点です。これは音の響きがとても似ている、
ということの意味します。日本語と言葉の並びが同じで音の響きも似ているアイヌ語にもっと
多くの方に興味を持っていただければと思います。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（関根健司）

歴史の散歩道



9人の偉人の方々

- 違星北斗【歌人】
- マンロー【医師・人類学者】
- ブライアント【伝道看護師】
- 金田一京助【ユカラ研究者、
言語学者・国語国学者】
- バチラー【宣教師、民俗学者】
- 松浦武四郎【北方探検家
著述家、開拓判官】
- 金成マツ【ユカラの伝承者】
- 近藤重蔵【北方探検家、書誌学者、幕臣】
- イザベラ・バード
【女性旅行家、紀行作家】

沙流川歴史館裏のにぶたに湖沿いにある管理用道路
に、教育・文化・福祉などの分野で活躍した偉人 9 人を
讃えるための記念碑が建っているのをご存知ですか。
1999 年（平成 11 年）、平取町が 1899 年（明治 32 年）に門
別戸長役場から平取八ヶ村戸長役場として独立して 100
年を記念した事業の一環として建てられました。これを
「歴史の散歩道」と呼んでいます。ぜひ天気の良い日に平
取町の歴史の勉強をしながら歩いてみてはいかがでしょうか。
（久米智江）

アイヌ語アーカイブ作成事業

博物館では「アイヌ語のアーカイブ作成事業」を進めています。これは長年、博物館で保管されていたオープンリールテープ 30 本をデジタル化することから始まりました。オープンリールテープの寿命は 40 年～50 年といわれています。それ以上、月日が経つと劣化し音を聞けなくなってしまいます。これらテープのケースには故萱野茂さんの筆跡と思われるメモ書きが残されていました。それによると、1969 年（昭和 44 年）に 6 名のフチ（お婆さん）たちに吹き込んでもらったアイヌ語口承文芸が録音されているようなのです。



二風谷アイヌ文化博物館で保管されている
アイヌ語音声資料オープンリールテープ

当時のことを知る人は誰もいませんし、録音内容を確認できる機材もありますが、間違いなく大変貴重なアイヌ語音声資料だろうということで、まずこれらを専門業者に依頼しデジタル化する作業を行いました。デジタル化とはテープの音声をデジタル信号に変

えることで、これによりパソコンなどで簡単に聞けるようになり、音声を後世に残せるようになります。実際デジタル化した音声を聞いてみると、とてもクリアで、その内容は、やはりかつて公開されたことのない 6 名のフチたちによる貴重なアイヌ語物語の数々でした。故萱野茂さんが聞き取り役となり採録したものです。ちょうどその頃、文化庁の補助事業「アイヌ語アーカイブ作成事業」によって、今度はこれらアイヌ語音声を聞き起こす作業に取り掛かりました。アイヌ語音声をローマ字とカタカナ両方で文字化し、和訳も付けていくのです。

ただ専門家に作業をお願いするのではなく、聞き起こし作業自体もアイヌ語学習の機会にしたいという思いで、聞き起こしメンバーを広く募りました。聞こえてくる音声は全てアイヌ語です。非常にハードルが高く、時間を要する作業ですが、これを行うことが一番アイヌ語力を高めることにもなります。ある程度聞き起こしたデータは、上級者のチェックを受け、また聞き起こし担当者に戻すという工程を繰り返し、最終的には千葉大学の中川裕教授に全てチェックしていただき、精度の高い聞き起こしデータに作り上げました。2013 年と 2014 年に行なった聞き起こし作業の成果である 18 時間強のアイヌ語口承文芸と、それらを解説した日本語会話部分も含む大量の音声は現在、二風谷アイヌ文化博物館のホームページで聞くことができます。聞き起こしテキストも読めますし、ダウンロードもできるようになっています。

この事業は現在も続いており、この先も続けていく見通しです。今年度は博物館で保管していた、故上田トシさんのアイヌ語口承文芸の聞き起こしを行っています。作業は平取町の有志だけではなく、札幌や白老、千葉大学などでアイヌ語を学んでいる多くの人たちもメンバーとして加わり、合計 30 名ほどが関わっています。これらの聞き起こし成果も準備が整い次第、随時公開していく予定です。皆さんもぜひ実際に聴いてみてください。（関根健司）

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

その1：一般公開に向けて

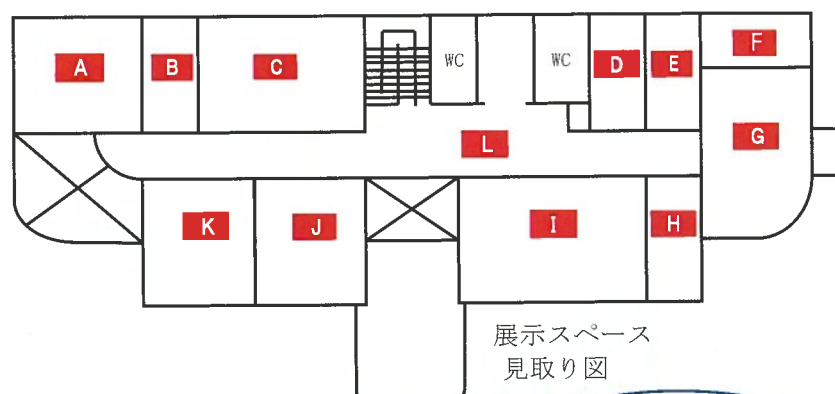
町内外の方から平取町に寄贈された資料のうち、北海道開拓期以降に使用された民具を当町では「開拓財産」と分類し、受け入れをしています。台帳整理されている資料は約400点です。資料の増加に伴い、収蔵場所はこれまでに数回変更されています。

①旧上岩知志小学校（現：上岩知志住民センター）→②旧長知内生活館（一時的に収蔵）→③旧振内青少年道場（旧平取高等学校振内分校）（一部展示公開）→④旧荷負小学校（廃校校舎）

平取町教育委員会文化財課は資料の整理収蔵作業を行っており、2019年（平成31年）4月の一般公開に向けて、町内の方々にご協力を頂きながら、旧荷負小学校に収蔵されている資料を再整理、展示構成を検討しております。

展示室となる教室は2階の8教室で、テーマは「商業・生活」、「学校」、「戦争・鉄道」、「林業」（2室）、「畑・稲作（春）」、「収穫（秋）」、「家での暮らし」となっております。また、1階の玄関付近には消防ポンプ車も展示されています。

開拓財産および旧荷負小学校展示施設は、シシムカ文化財だよりで今後1年間ご紹介していきます。どうぞよろしくお願いいたします。（広岡絵美・小林斉子）



- A** 商業・生活
- C** 学校
- D** 戦争・鉄道
- E** 林業
- G** 林業・馬具
- I** 収穫（秋）
- J** 畑・稲作（春）
- K** 家での暮らし
- L** 壁面展示

B・F・H 収納庫

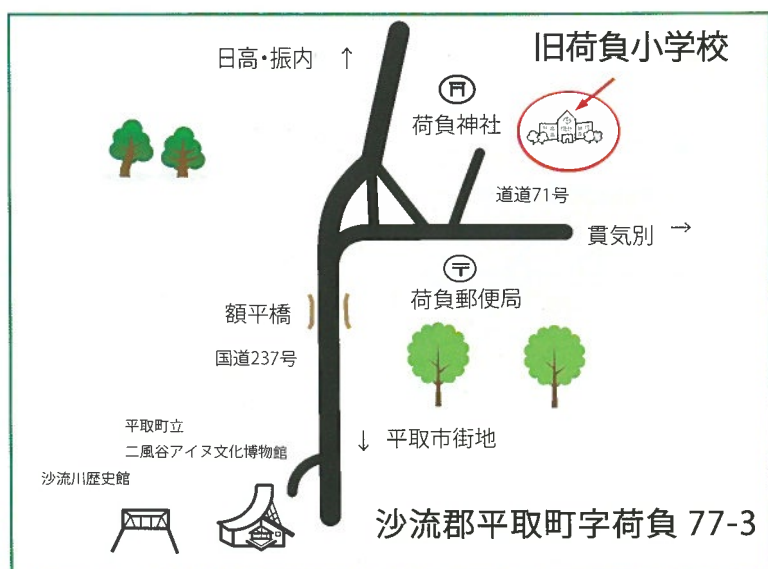


K 家での暮らし

昭和初期・昭和10年以降の家の様子を再現しています。



旧荷負小学校



平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■ 周辺再整備事業実施中

路面が凍っていて大変滑りやすくなっています。気をつけてお越しください。

平取町

■ シシムカ文化大学第5回講座

期日：2月15日（金）18:30～20:50

場所：ふれあいセンターびらとり

問合先：アイヌ施策推進課

TEL 01457-2-2341

■ 第30回シシムカアイヌ文化祭

期日：2月17日（日）12:00～15:00

場所：平取町中央公民館

問合先：アイヌ施策推進課

TEL 01457-2-2341

萱野茂二風谷アイヌ資料館

■ 冬期休館（4月15日まで）

問合先：萱野茂二風谷アイヌ資料館

TEL 01457-2-3215

沙流川歴史館

■ 企画展

「切手の歴史展」

期間：4月23日（火）～5月26日（日）

場所：沙流川歴史館エントランスホール

休館日：5月7日・13日・20日

※大型連休期間中は休まず開館します

■ むかしの写真を探しています

今後の展示資料のために、平取町の古い写真（昭和時代）のほか、開拓資料に関する写真を探しています。

お貸しいただける写真がございましたら、沙流川歴史館までご連絡ください。デジタル化した後ご返却いたします。

編集後記

2019年4月30日で「平成」が終わることから「平成最後の〇〇」というフレーズが各所で使われていたと思います。「平成最後のシシムカ文化財だより」は4月末発行です。お楽しみに！（本田卓也）

2019年1月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

● 博物館・歴史館 休館日

2019年2月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	1	2

● 博物館 休館日

2019年3月

日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	31	25	26	27	28	29

● 歴史館 休館日

2019年4月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

■ 歴史館 企画展

シシムカ文化財だより No. 1

2019年1月25日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

